

令和5年7月31日

大網白里市議会議長 小金井 勉 様

総務常任委員会委員長 北田 宏彦

文教福祉常任委員会委員長 森 建二

産業建設常任委員会副委員長 上代 和利

大網白里市議会三常任委員会合同行政視察報告書

- 1 期 日 令和5年7月4日（火）～7月6日（木）
- 2 視 察 先 北海道旭川市・富良野市
- 3 調査事項 旭 川 市 移住・定住施策について
空き家対策について
I C Tパークについて
富良野市 子ども・子育て支援施策について
- 4 参加議員
総務常任委員会 北田宏彦、土屋忠和、山下豊昭、蛭田公二郎、
黒須俊隆
文教福祉常任委員会 森建二、小倉利昭、林正清子、堀本孝雄、宮間文夫
産業建設常任委員会 上代和利、石渡登志男、田辺正弘
(同行：小金井勉議長)
- 5 視察報告 別紙のとおり
- 6 経 費 別紙のとおり

別紙

5 視察報告

■総務常任委員会 視察研修報告書（報告者：黒須俊隆）

○北海道旭川市

◆視察先自治体概要

人口 322,187人（R5年6月1日現在）

世帯 177,726世帯

面積 747.66平方キロメートル

一般会計予算 1,693億円

特別・企業会計予算 1,236億円 合計2,929億円

◆視察内容

(1). 移住・定住施策

- ①旭川市移住支援金
- ②旭川市山村定住促進補助事業
- ③旭川嵐山移住生活体験住宅

(2). ICTパーク

(1). 移住定住施策

①旭川市移住支援金の事業概要

東京23区（在住者または在勤者）から旭川市へ移住し、就業または起業する方等を対象に支給

支援額：世帯100万円（18歳未満の世帯員1人につき30万円を加算）

単身60万円

起業300万円（最大）

Q：この事業を始めるきっかけ、経緯、また当初と現在の具体的な目標を教えてください。

A：「わくわく地方生活実現政策パッケージ」策定し、若者を中心としたUターン対策の抜本強化等を図る。

Q：この事業に対する国、道の支援、市の考え、また事業費の負担割合を教えてください。

A：目的は、東京一極集中の是正。地方の担い手不足への対処、「地方で起業したい」等の移住者の希望を叶える。

Q：この事業の対象者を東京23区、あるいは東京圏から23区への勤務者に限定している理由を教えてください。

A：若者を中心にした地方から東京圏へ毎年10万人を超える転出超過・地方の若者は15年間で523万人減少。15歳以上の就業者が、地方で大幅に減少（15年間で地方△228万人、東京圏160万人）

Q：これまでの移住者の実績を教えてください（移住者数、移住者の就業条件（就業、起業、テレワーク）別の数や、移住者の家族形態（単身、夫婦、子ども）など。

A：令和元年、令和2年は実績無し。

令和3年＝3件、1,800万円（いずれもテレワーク：単身）。

令和4年＝4件、2,800万円（テレワーク3件（単身2,世帯1）、就業1件（単身）

②山村定住補助事業の概要

旭川郊外の江丹別地域への移住を促進するため、江丹別地域へ転入する方などが住宅を購入する場合、その費用の一部を補助

補助額：費用の50%（上限300万円）

市内事業者に発注・購入の場合10%加算（上限100万円）

世帯に「中学2年生までの子どもがいるとき」は1人に対し20万円

Q：山村定住促進補助金について、具体的な内容を教えてください。

A：基本額＝対象経費の50%（上限300万円）

住宅建設加算＝対象経費の10%。

合併浄化槽設置＝35万2千円。

就学援助金＝20万円（中学2年生までの子どもがいる場合）

Q：この事業を始める経緯、また現在の具体的な目標を教えてください。

A：旭川郊外の江丹別地域の移住を促進するため。

Q：この事業に対する財源、国・道の支援はあるか、また、事業費の負担割合を教えてください。

A：無い。全て、一般財源。

Q：これまでの実績を具体的に教えてください。

A：平成24年度＝改修1件250万円、

建設1件113万9千円。

平成30年度＝建設1件475万2千円。

令和2年度＝改修1件166万4591円

令和4年度＝建設1件475万2千円



③旭川嵐山移住生活体験住宅の概要

旭川嵐山移住生活体験住宅は、郊外の江丹別地域にあり、年の利便性と豊かな自然に囲まれた暮らしを体験できる。

対象者：市内での定住を希望する方。

家賃・光熱水費の支払い能力のある方。

本体験住宅及び敷地内の基本的な維持管理を適切に実施できる方。

Q：嵐山移住生活体験住宅について、具体的な内容を教えてください。

A：令和4年度の決算（旭川市の負担）は94万8千円。

運営主体は、「旭川嵐山移住生活体験住宅運営協議会」（地域住民、旭川市で構成）

利用契約は1か月以上からで、家賃は、月額で35,000円（リース料、光熱費を併せると、5～10月は65,000円。11月～4月までは80,000円）

Q：この事業を始める経緯、また現在の具体的な目標を教えてください。

A：旭川嵐山移住生活体験住宅は、郊外の江丹別嵐山地域にあり、都市の利便性と豊かな自然に囲まれた暮らしを体験してもらうもの。

Q：この事業に対する財源、国・道の支援はあるか、また、事業費の負担割合を教えてください。

A：無し。一般財源。

Q：これまでの実績を具体的に教えてください。

A：東京都在住 男性（50代） 190日間滞在。



(2). ICTパーク

2021年2月、北海道旭川市に新たなeスポーツ施設「ICTパーク」が誕生。

映画館だった旭川国民劇場をベースに、eスポーツイベントだけでなくプログラミング教室やVR映像体験などの複合的な目的に対応したICT施設。

最新の通信技術「ローカル5G」を利用した高速通信の活用・実証の拠点。

施設の管理運営を行うのは一般社団法人「大雪カムイミンタラDMO」

私達は、運営者の方から、ICTパークを実際に観て、体験させていただきました。

ICTパークは、まちなかの賑わい、ICTに関心の高い人材の育成、IT関連企業誘致や最先端技術の導入などを目的として、令和3年2月7日に旭川市3条通8丁目の神田館内に開設された施設です。

この事業の取り組みのきっかけは、大きな背景としては「ICT人材や事業の育成・誘致」という行政課題の解決が目標になっています。

また、「まちなかの賑わいの創出」といった観点から、新たに若者の目的地や観光スポットとなるタッチポイントとして、eスポーツやプログラミングを切り口とした施設が検討された。という経緯になります。

旭川市が位置する上川地方は総人口40万人ほどですが、旭川市はそのうち33万人を抱えており、医療や交通・教育などの都市機能が集まった中心地域になります。中心部の衰退は全体へ影響しますので、やはり下支えとなる経済力の維持拡大のためにも、今までとは違うアプローチが求められているそうです。

旭川市や周辺自治体では企業の誘致なども行っていますが、ICT企業を誘致するにも精通した人材の不足がハードルになったり、逆に高等教育機関で能力のある人材を輩出しても活躍の場が無いので都市部へ出て行ってしまったり、というミスマッチの状況も起こっていました。

ICTパークは3階が「コクゲキ」という大型ビジョンを備えたイベントホールで、1階が「トレーニングジム」としてeスポーツカフェのようなゲーミングPCを備えた施設になっています。この「トレーニングジム」では、プログラミング教室も予定しています。



■産業建設常任委員会 視察研修報告書（報告者：上代和利）

日時：令和5年7月4日（火）

場所：北海道旭川市

視察テーマ 空き家対策について

（視察においての一部の質問を書かせていただきました）

問、空き家対策に関する市独自の施策や助成には、どのようなものがありますか。

答、空き家対策に関する市独自の施策としましては、司法書士会及び宅建協会と「空き家等の対策の推進に係る連携協力に関する協定」を締結し、相続や登記、また、空き家やその土地の利活用等に関する相談や情報提供などで協力いただいているほか、年に一度「空き家無料合同相談会」を実施しております。また、所有者が不在の空き家につきましては、相続財産管理人の選任申し立ての制度を活用し、危険度のほか土地の売却益による空き家の解体の可能性を鑑み計画的に申し立てを実施しております。

問、空き家対策における庁内各課の連携体制（役割分担）はありますか。また、自治会等からのかかわり（情報の提供など）はありますか。

答、旭川市では、空き家等対策について庁内関係部局から構成するに「旭川空

き家等対策連絡会議」を設置しており、市民からの相談や苦情に対しては、同会議を活用し、情報共有や関係する部局が連携して空き家等対策に取り組んでいます。主な関係部局としては、緊急的な危険除去に関することは消防本部、税制に関することとして税務部、高齢者支援に関することとして福祉部、保健部、道路への落雪に関することとして土木部、草木の繁茂に関することとして環境部、害虫、害獣に関することとして保健所となっています。また、町内会のかかわりとして町内会等からの相談や苦情などをうけることはもとより、一部の町内会等では市と合同でパトロールを実施し情報を共有したり、町内会等の会議の場での市の空き家等対策の現状を説明する機会を設けていただいたりしています。



旭川市空家等対策計画 概要版

計画期間：令和4年度から令和8年度まで

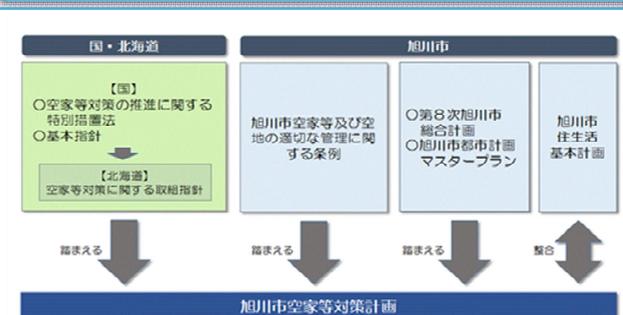
第1 計画策定の趣旨

背景と趣旨

空家等に関する問題の早期解決とともに、空家等が放置され、管理されなくなることを防止するため、平成29年3月に「旭川市空家等対策計画」を策定し、空家等対策に取り組んできました。

本計画は、空家等の状況変化を踏まえ、5年ごとに見直すこととしており、今後も空家等の増加が見込まれ、それらがもたらす問題が一層深刻化することが懸念されることから、空家等対策を総合的かつ計画的に進めるため、旭川市空家等対策計画を改定します。

計画の位置付け

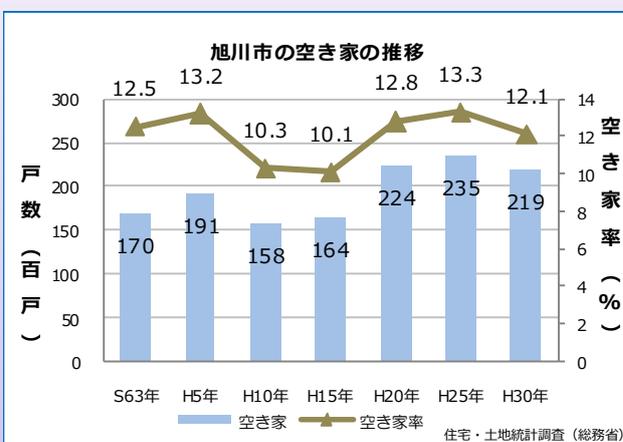


第2 現状と課題

空き家の現状

空き家の推移は、平成15年から増加傾向に転じ、平成20年には6,000戸余りの大幅な増加がみられました。平成30年には、空き家数は21,920戸となり、平成25年より減少し、空き家率は12.1%となっています。

本市に寄せられる空家等の相談内容は、落雪に関するものが最も多く、次いで、部材等の飛散や建築物の倒壊に関するものが多くなっています。そのほか、犯罪のおそれ、雑草の繁茂やねずみ・害獣の繁殖、スズメバチの営巣など多岐にわたる相談が寄せられています。



課題1 所有者としての当事者意識の向上

課題2 特定空家等の解消に向けた相談、情報提供及び支援等の充実

課題3 特定空家等への措置対応の継続

課題4 大規模空き建築物への対策

第3 基本方針

<基本目標> 総合的な空家等対策による安全安心なまちづくり

<基本方針> 多様な連携による空家等対策の推進

第5 成果指標

◇特定建築物等の是正割合
前年度の特定空家等件数の20%を翌年度において是正する。

◇倒壊等著しく保安上危険な状態にある特定空家等の数
令和8年度末での倒壊等著しく保安上危険な状態にある特定空家等の数を40棟とする。
(R4年2月末時点47棟)

第4 空家等対策

▶施策テーマ1
空き家や特定空家等の発生の抑制

- ◇適切な管理の周知・啓発
- ◇良好な住宅ストックの形成

▶施策テーマ2
空き家の活用

- ◇多様な連携による利活用等の促進
- ◇利活用の促進に向けた情報提供

▶施策テーマ3
適切に管理されていない空家等への対応

- ◇助言又は指導等や法的措置の実施
- ◇所有者不在空家等の法的手続
- ◇除却等の補助・支援

(所感) 今回視察にあたり、事務局の皆様には大変お世話になりありがとうございました。空き家等対策について、旭川市から説明をいただきありがとうございました。ご苦労されていること。市民の皆様に寄り添っていらっしゃる。大変苦慮している様子は、本市においても同様で、少子高齢化が進む中で、社会問題となっています。一步一步進めていかなくてはなりません。今まで大変なコロナ禍のなかで、地方移住に目を向ける方もいらっしゃる。大事なテーマとして今後も取り組んでまいりたいとおもいます。ありがとうございました。

■文教福祉常任委員会 視察研修報告書（報告者：林正清子）

- (1) 期 日 令和5年7月5日（水）
(2) 視 察 先 北海道 富良野市
(3) 調 査 事 項 北海道 富良野市
子ども・子育て支援施策について
説明者 こども未来課長 西手 和子 様

(4) 視察先概要

人 口 19、923人（令和5年3月末現在）
世 帯 10、457世帯（ 同 上 ）
面 積 600.71km²
一般会計予算 140億円
特別・企業会計予算 84億円 合計224億円（R5年当初）

市議会議員定数 16人 議員報酬 310,000円/月
政務活動費 0万円/年

市 長 北 猛俊 様 議 長 渋谷 正文 様
副議長 今 利一 様



(5) 視察内容について

①「富良野市の子ども・子育て支援制度」

富良野市は総合計画において、「ライフステージごとに切れ目なく、地域全体で安心して子育てする環境があり、保護者の満足度が高い」子育て環境づくりを目指しており、子ども・子育て支援事業計画では、「すべての幼児・児童が、障害の有無に関わらず、互いの個性を尊重し合いながら、夢と希望をもって心豊かに、たくましく育ちあう教育を推進するために、一人ひとりのニーズに応じた専門的な指導・支援を行い、自立や社会参加に向けて個々の能力を伸ばすことができるように環境を整備する」ことを基本理念としている。

②「こども未来課」所管の子育て支援事業について

- ・ LINE 公式×子育て chatbot
- ・ 出産、子育て応援給付金
- ・ 記念写真×フォトフレーム
- ・ 乳児子育て応援ギフト
- ・ 児童手当
- ・ 赤ちゃんの駅
- ・ 家庭児童相談室
- ・ 木育スタート
- ・ 保育所事業
- ・ 幼児教育、保育の無償化
- ・ 多子世帯の保育料軽減支援（2人目以降の0～2歳保育料無料）
- ・ 子育て支援短期利用事業
- ・ 幼稚園運営
- ・ 富良野市ファミリーサポートセンター
- ・ ひとり親世帯支援事業
- ・ 放課後デイサービス



(6) 行政視察 進行：富良野市議会事務局

あいさつ

富良野市議会議長 渋谷 正文 様

大網白里市議会文教福祉常任委員会 森建二委員長



(7) 富良野市子ども・子育て支援施策について

こども未来課長 西手 和子 様 あいさつ、説明

各町での子育て支援、少子化対策の課題は似ているようなところがあるのではと大網白里市さんからお話しいただき、忌憚のない意見交換が出来たら幸いです。

自分はこの富良野市四方山に囲まれ、大自然の中で生まれ育ち、縁あって現在の職についております。

富良野市は、昭和41年に市制を敷いていますが、それ以前に合併があり保育園、学校関係の公的機関が集まった経緯があります。

子育て支援、少子化対策など中々特効薬はありませんが、こども未来課は教育委員会に属しているのが特長で、「すべての子どもたちのために」をキャッチフレーズに子ども、子育て支援されている方々に寄り添い、「子どもの権利を守る」も重きを置き、子育て支援に取り組んでおります。

また、本日新庁舎（昨年9月竣工）に入られた際に見かけられたことでしょうか、1階ロビー横にへそキッズランド～子どもの遊ぶ場を設けました。

今のニーズに合わせて雨の日でも遊べる場、子育て孤立しないようにと設けましたが、毎月300人を超えるニーズがあります。

入室も退室も市はノータッチで利用されています。

木育も始めました。乳児7か月相談時に森林環境贈与税を利用しての森

林組合、市内の作家さんのアイデアを取組み、山の中の資材、廃材あるもの活かしで積み木～パズルをプレゼントしています。

就労支援作業所も関わり、活き活き働く場のひとつを担い製作しています。

(8) 事前質問事項

問 1. ふらの子育てアプリ「母子モ」につき、富良野市独自の機能を追加しているのでしょうか。(大網白里市では実施されていない。)

答 母子手帳の電子版です。データをお母さんが入力したりするシステムですが、育児の孤立にならないよう、情報のチャンネルもたくさんあるように、ガイドブックも大切ですし、母子モの中にも情報を随時発信しています。30万円ほどの費用で出来ます。

問 2. 公式 LINE で、子育て chatbot を作っていらっしゃいますが、登録者数は何名くらいでしょうか？またどの様な相談が多いですか？

答 担当課でフォローすることはなく、友達承認が1万8千ほどとフォロアーが1万人を超えています。
最近はクマ出没情報や教育委員会関係で不審者情報など流れてきております。

問 3. 民間保育園、保育士に対する各種助成や処遇改善策、およびその財源について教えてください。

答 公立の幼稚園は富良野市ではありませんが、幼稚園、保育園関係は募集してもなかなか集まらず、不足しております。
賃金、処遇に関して補助するものではありません。
保育関係だけでなく専門知識、技術職の不足は市・全体にもあり、市役所全体で協議しているところであります。

問 4. 子育てガイドブック作成は外注ですか、それとも職員の皆さんで作っていますか？

答 職員が作成しております。

問 5. 大網白里市では「コドモン」などの web 活用型の保育業務支援ツールに助成金を出しています。業務支援についての施策をお聞かせください。

質問 (富良野市) 大網白里市さんでは導入されていますか？

答 (大網白里市) 民間の保育所を中心に、親御さんとの連絡帳の代わりに活用、導入を始めています。

答 公立の保育所で登園関係、休みますということをもれなく伝えることが出来、保育士の手間が省け、月間保育計画も導入されていま

す。

また、具合が悪くなった時、映像で親御さんに伝えられ、より早く状況を知ることが出来ます。

国からの助成金活用、ICT関連事業、保育士がアパートを借り上げた時の国からの助成金を活用など、年に1回か2回保育関係機関を集めて助成金等のアドバイスをしています。

問6. 放課後デイサービスについて、利用の費用負担はいかがでしょうか。

答 富良野市では民間がデイサービスを行っております。
放課後利用すると負担額一日1,000円ほどで月に15日間利用となると15,000円ほどになります。国で上限配備しております。

問7. 大網白里市では、図書館と保育の連携による「本の読み聞かせ会」などを実施していますが、貴市ではそういった子育て支援の連携については行っていますか。

答 図書館事業としてホームページにも紹介されていますが、ボランティアさんなどで図書館のイベントとして読み聞かせを実施しています。
また、ブックスタートとして7か月児相談時に図書館職員から「ブックスタート・パック」をプレゼントします。内容は、絵本を2冊、読み聞かせアドバイス集、おすすめ絵本リスト他、富良野市独自の事業です。

問8. 「へき地保育所」が多く感じられますが、設置までの経緯、利用状況などについてお聞かせください。

答 合併した際の保育所が集まってあり、新規就農される方々の利便性などの良い点もある一方で少子化の問題の観点からへき地保育所の在り方は今後も課題です。

問9. 「赤ちゃんの駅」につき、利用状況と周知の方法についてお聞かせください。

答 富良野市・ホームページや商工会のところで紹介されているところで公的な機関大きな病院とかまた、ホテルなどに設置されています。
お子さん連れでの行き場所をSNSなどで今のお母さん方は上手に探していただけます

問10. 子育てガイドブックP23、「ヘルパー派遣の利用」につき、「身内に近くにいる、体調不良で困ったときに助けてもらえるヘルパー

さんを派遣」との事ですが、事前登録が必要と思われますが、運営上の問題、悩みなどありましたら教えてください。

答 子育てガイドブック 23 ページにも載っていますようにひとり親家庭の方で子供と向き合うのが大変な方の手助け事業です。係の方で十分調査して進める事業ですが、似たような事業で、富良野市は養護施設があり、施設と契約している事業もあります。この事業の利用はほとんどありません。注意しなければならない家庭を生まれてから切れ目なくみんなで考え支えて行く仕組みづくりに力を入れております。子育て支援に関する早い段階でのサービスを知って頂くよう努めております。



(9) 質疑応答

進行：大網白里市 文教福祉常任委員会 森建二委員長

問 大網白里市では、子育てネットワーク協議会があり、学校の先生をされていた方など子どもを預かったりする民間の団体があります。子育てネットワーク協議会に限らず問題になるのは、「子供の貧困」と「ヤングケアラー」の二つで深刻な問題になっています。また、本市ではボランティア活動も盛んですが、富良野市さんではどのような現状でしょうか。

答 二つとも新しい課題ですね。

問 大網白里市さんでは状況を把握されていますか？

答（大網白里市）両方とも把握できていない状況にあると思います。

この問題は、介護される人や介護する人が存在したりする。それらを踏まえて、高齢者支援課や障害担当課など支援が入っている

かどうかが重要であります。

また、ヤングケアラーの把握と「学ぶ権利」や「遊ぶ権利」が守られているのかについても絶えずアンテナを張り、各課の連携も大切に乗り切っていくべきものだと思います。

ボランティアの情報も大切なので取り入れ子供を中心にした一つのチームとしてどう支援するかを決めて子ども家庭センターの中で機能して行けたら、より改善されると思います。

子ども食堂など民間の活動支援団体もあるのですが、まだ、十分に連携できていないのが現状で連携を図って行きたいと思います。

問 議長 大網白里市ではヤングケアラーの状況を把握されていますか。

答 現状は、把握できていません。

答 議長 議会の中でも話していますが、どこにいるのか、どうすればよいのか把握しきれていないのが現状です。

答 子供だけの問題ではなく、生活保護世帯の問題もあります。

意見 アンケートを取ったりすることが重要で子供の貧困、ヤングケアラーの問題は把握することからでないと進まないです。

答 議長 それぞれの市町村で方法、特長を活かして行けたらよいです。

答 市内学校コーディネーターが相談に行きやすいようなので学校から連絡もらい、先生方とも連絡し合う事で割とスムーズに行きます。
実際のところ、実態を把握しないと効率よく動けないところでもあります。

問 特別支援保育をされて親御さんが認めない（障がい等）時の対応と連携はどうされていますか。

答 保健師さんからの早期対応で早期療育～保育園選定～学校選定へと早め早めに対応が必要です。

小さい時から関わった職員には絶えずあきらめないで対応してほしいと伝えていきます。次につながるので。

園に対しても全体的に理解の底上げに努めています。

問 子育て支援短期利用事業と、ひとり親家庭等日常生活支援について。前事業は大網白里市に養護施設がないので実施できませんが、後事業は本市でも今後検討の必要が出てくると思います。事業概要や課題についてお聞かせください。

答 事前質問でも述べましたようにひとり親家庭の相談の中からサービスの提供など上げていきます。

富良野市では養護施設があり契約しています。他市でも養護施設と契約していますが、受け入れのタイミングがあり難しいものがあります。

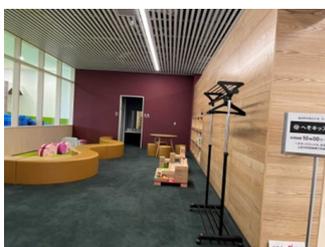
また、保護者の方で、実際のところ施設の名前だけでも抵抗感があ

り、児童相談所となるとさらに抵抗感があるといった状況です。

(10) 謝辞

大網白里市 文教福祉常任委員会 小倉利昭 副委員長

所感 子ども・子育て支援策については、共通課題として位置づけられるものが多々あることをあらためて認識しました。
他市町村の成功例を踏まえながら、市に合った独自施策も模索して行きさらなる子ども・子育て支援策の充実を希望いたします。
また、民間も含めて連携の大切さも改めて認識したので、それらの充実も図り、進めて行けるよう努めます。



へそキッズランド～子どもの遊ぶ場

6 経 費

【大網白里市議会三常任委員会合同行政視察研修経費】

① 宿泊日当 (13,100 円×1 日) ×14 人	183,400 円
② 交通費	
(航空運賃 44,220 円+高速バス 3,800 円) ×11 人	528,220 円
(航空運賃 44,220 円+高速バス 3,300 円+JR420 円) ×3 人	143,820 円
③ 借上げバス (3 日)	291,500 円
④ 諸経費 (企画手配料・添乗員等費用・有料道路)	175,690 円

合 計 1,322,630 円